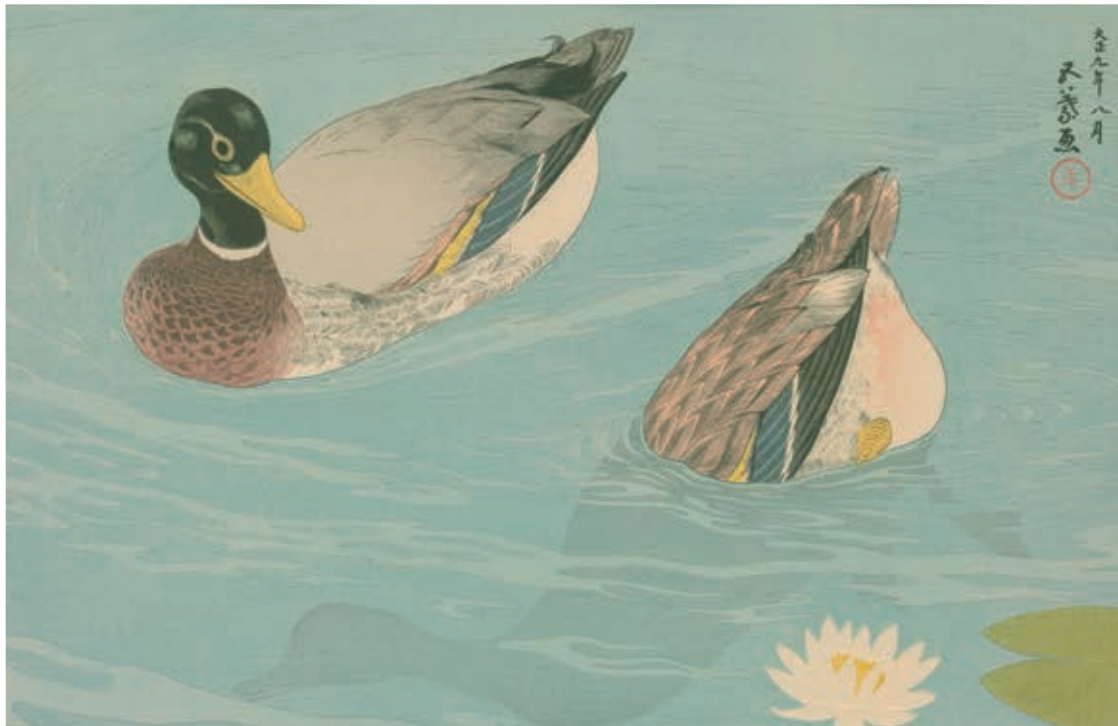

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2020.6

国立国会図書館
月報



上野の図書館—『夢見る帝国図書館』によせて

あの人の蔵書 堀田両平コレクション

国立国会図書館で働いています

就任のごあいさつ

国立国会図書館長 吉永 元信



兵庫県芦屋市出身。

早稲田大学政治経済学部政治学科卒。

昭和 48（1973）年 4 月 国立国会図書館入館。

平成 18（2006）年 4 月 総務部長。

平成 19（2007）年 12 月 副館長（平成 23（2011）年 3 月退任）。

平成 23（2011）年 9 月から令和 2（2020）年 3 月まで信州豊南短期大学教授。

【趣味】

義太夫、端唄、三味線

このたび、4月1日付けで、第17代国立国会図書館長を拝命いたしました吉永元信です。これまで皆様からいただきました国立国会図書館に対するご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休館等により、利用者の皆様にご迷惑をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

1990年代から「電子図書館」という言葉が頻繁に語られ、平成10(1998)年に策定された「国立国会図書館電子図書館構想」では、「どこでも、いつでも、だれでも」という時間と空間に制約されない新しい図書館像がうたわれました。私が副館長をつとめた平成20(2008)年前後には、Google Booksの衝撃もあり、当館でも大規模デジタル化事業を行うなど、その国の文化財である資料は国立図書館がデジタル化する、という動きが世界的に顕著となりました。当時は、将来的にはすべての資料・情報が電子で流通するとも言われていましたが、現在は、紙と電子、それぞれの長所でバランスを取ってきているように思われます。

速度ではインターネット情報に劣りますが、図書館には図書館の大切な責務があります。資料や情報を収集し、正確な典拠をつけること、利用していただくために適切な検索手段を用意すること、そして特に国立図書館はそれらをその時代の知的文化財として未来永劫永久に保存し、残していくことです。

以前、トルコに旅行し、エフェソスという都市で古代ローマ時代のケルスス図書館の大きな遺跡を見る機会がありました。古代ローマと近代以降では図書館の位置づけは違うかもしれませんが、古代の時代から、資料を収集・保存し、情報を流通させようとしていた人間の強い意志が伝わってきました。

新型コロナウイルス感染が拡大しているこの状況下では、グローバリズムの進展、近代的市民の良識、さらには日本の民主社会の在り方が問われています。このような緊急時、図書館は議論の俎上に上がりにくいものです。が、じつは国民の知識の土台、よりどころを問うているように思います。収集した資料や

情報は国会議員や国民の知的情報基盤として寄与する、そのことが、国立国会図書館法前文にある「真理がわれらを自由にする」、「日本の民主化と世界平和」につながるものだとあらためて痛感しています。

国立国会図書館がそのような役割を十全に果たしていくためには、当館だけでなく、国内外の図書館、そして博物館や文書館といった他機関とも協力していくことが大切です。また、国会サービスをはじめとして、より高い専門性が求められているため、職員の育成を進めるとともに外部の専門家の協力を仰ぐことも必要だと考えています。

かように情報環境が移り変わる中、国会の図書館として、また唯一の国立図書館として、次世代の一層の発展につなげるべく、全ての職員とともに、誠心誠意、自らに課せられた職責を全うする所存です。重ねて、皆様のご理解とご協力をたまわりますよう、心からお願い申し上げます。

国立国会図書館 月報

NO. 710
JUNE 2020

CONTENTS

- 就任のごあいさつ
- 3 『ヴァイオリン独習自在 速成簡易』
— 憧れの西洋楽器、ヴァイオリンを弾きたい —
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 7 上野の図書館
— 『夢見る帝国図書館』によせて
- 8 上野の図書館の系譜
- 9 写真で見る帝国図書館
- 14 上野の図書館に来た文豪、読んだ本
- 19 文書で紐解く上野の図書館
— デジタルコレクションで見る帝国図書館文書
- 24 あの人の蔵書 第3回
堀田両平コレクション
- 30 国立国会図書館で働いています
no. 6

29 館内スコープ
「とても困った！」

33 本屋にない本
『理科室からふるさとの自然を見つめて』

34 NDL TOPICS

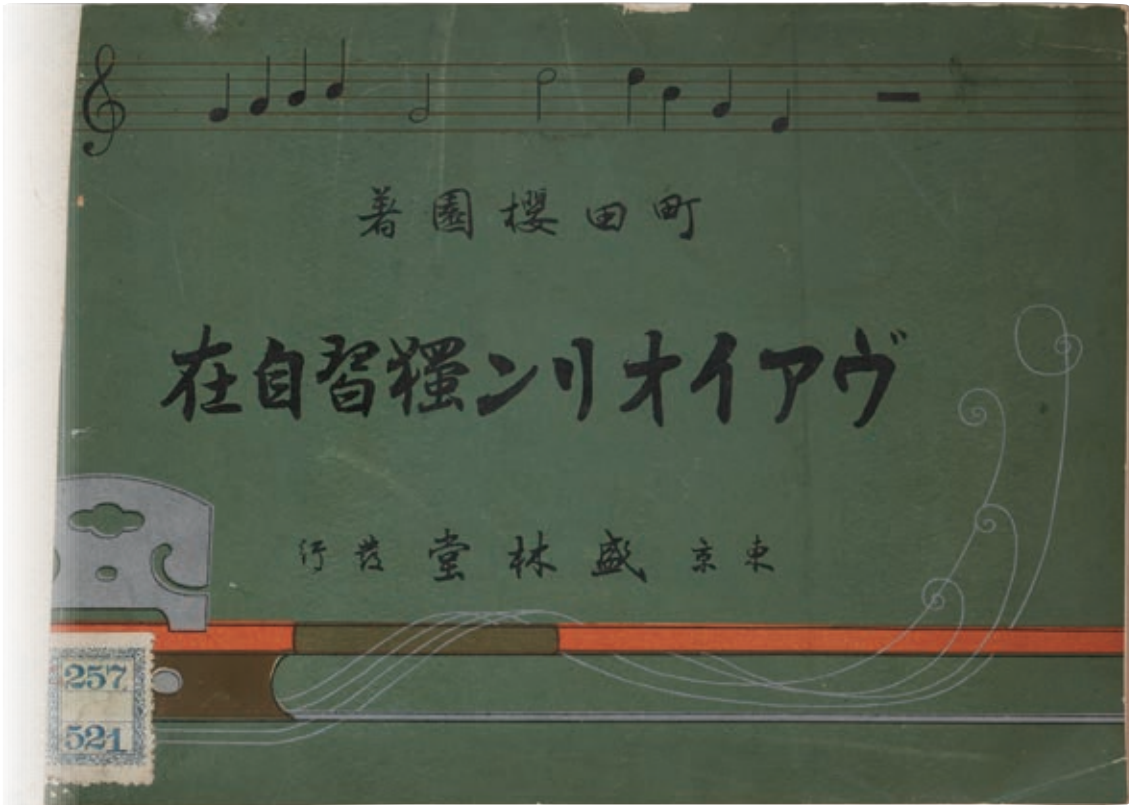


表紙：
「水鳥」
橋口五葉 画 大正9（1920） 1枚 34×49cm
（『橋口五葉版画集』所収）
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2542911/12>

『ヴァイオリン独習自在 速成簡易』

—憧れの西洋楽器、ヴァイオリンを弾きたい—

齊藤 史



表紙。ヴァイオリンの弓と駒を配置したデザイン。

ヴァイオリン独習自在 速成簡易

町田桜園 著 盛林堂 明41.7 126p; 15×22cm

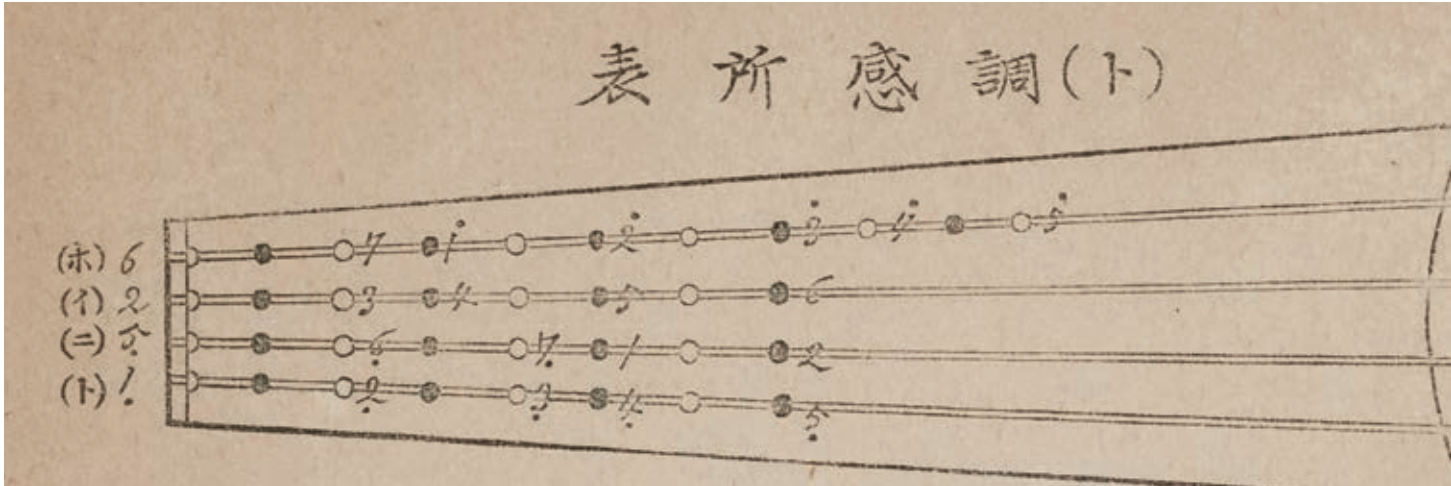
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/854715> (モノクロ画像)

現在の日本において、ヴァイオリンを演奏する人はどれくらいいるのでしょうか？正確に数えることは困難ですが、例えば2020年現在、東京だけでプロ、アマチュア合わせて500を超えるオーケストラが存在します^①。これらのオーケストラに関与する奏者の数を考えるだけでも、国内のヴァイオリン愛好者の多さを推測することができます。

そんなヴァイオリンが日本に入ってきたのは、開国直後の江戸末期のことでした。初めて日本でヴァイオリンが弾かれたのは文久3(1863)年、横浜の外国人居留地においてだそうです。その場に日本人がいたかどうかは定かではありませんが、いずれにせよ、ほんの150年程前の日本人にとっては、ヴァイオリンは見知らぬ異国の不思議な楽器でしかなかったのです。

今回ご紹介するのは、その異国の楽器が徐々に日本になじんでいく過程で出版されたヴァイオリン教則本『ヴァイオリン独習自在 速成簡易』です。明治41(1908)年に刊行されたこの本を開いてみましょう。まず目に付くのは、取り上げられる曲の多くが日本の曲だということです。並ぶのは「君が代」「紀元節」「長唄越後獅子」「かつばれ」「鉄道唱歌」など、当時の市井の人々

表所感調(ト)



(ホ) 6
(イ) 2
(ニ) 7
(ト) 1

○音の長短表

高音 低音

以上逆順

2 1 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

半音

(例を 5 にとる)

5	—	—	—	—	四拍子の間のばす
5	—	—	—	—	三拍子.....
5	—	—	—	—	二拍子.....
5	—	—	—	—	一拍子.....
5	—	—	—	—	一拍子の半
即ち	5	5			にて一拍子

(上) ト長調の運指の説明。「イロハニホヘト」を1~7の数字に置き換え、音の長短は独自の記号で表している。弦の名前は「イロハニホヘト」を使っている(EADG⇒ホイニト)。
(中) 音名表記と音の長短を説明する頁の一部。
(下) ト長調の楽曲の一つとして取り上げられている「鉄道唱歌」(部分)。現在のヴァイオリン奏者にはむしろ難解な表記であろうか。

鐵道唱歌

(二拍子)

1. 1	1. 2	3. 3	3. 2	1. 1	1. 6	5 . 0	6 6	5 6	6
き	て	き	い	つ	せ	い	し	ん	ば
し	ん	ば	し	と			は	や	わ
が									
1 2	3. 3	2 2	1. 2	3 . 0	5 . 5	5 . 5	5 . 5	5 5	6 . 5
き	し	や	は	—	は	な	れ	た	り
									あ
									た
									ご
									の
									や
									—
									女
									に
3 . 1	2 . 3	2 . 0	1 . 2	3 . 3	2 . 2	5 . 5	3 3	2 . 3	3
い	り	の	こ	る	つ	—	き	と	た
									び
									ち
									の
									と
									も
									と
									し
1	.	0							
て									

になじみ深かったであろう楽曲の数々。曲によっては歌詞もともに記されているところを見ると、これらの曲をヴァイオリンの伴奏で歌うことも想定していたのかもしれない。次に気が付くのは、教則本でありながら五線譜を用いた楽曲表記がされていないことです。「イロハニホヘト」の7音は1~7の数字に置き換えられ、音の長短

明治末期に刊行されたヴァイオリン教則本



三田音楽院同窓会 編『春雨と三十三間堂 ヴァイオリン二部聯奏』
星野文星堂 明42.6 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/902690>
(モノクロ画像)

同じく、この時期に刊行されたヴァイオリン楽譜の表紙。着物姿の女性二人が持つ楽器は三味線であり、ヴァイオリンが三味線の代用として使われたことをわかりやすく示している。



町田桜園(久) 編『ヴァイオリン楽譜第十三編』盛林堂 明40-42<請求記号 特67-229>

町田桜園はこの教則本の他にもヴァイオリンの楽譜や教則本を複数刊行している。これは長唄「桃太郎」の楽譜の表紙。この楽譜は五線譜で表記され歌詞も付記されている。

福島琢郎 著『ヴァイオリン独習の友』十字屋楽器店
明43.4 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/854717>
(モノクロ画像)

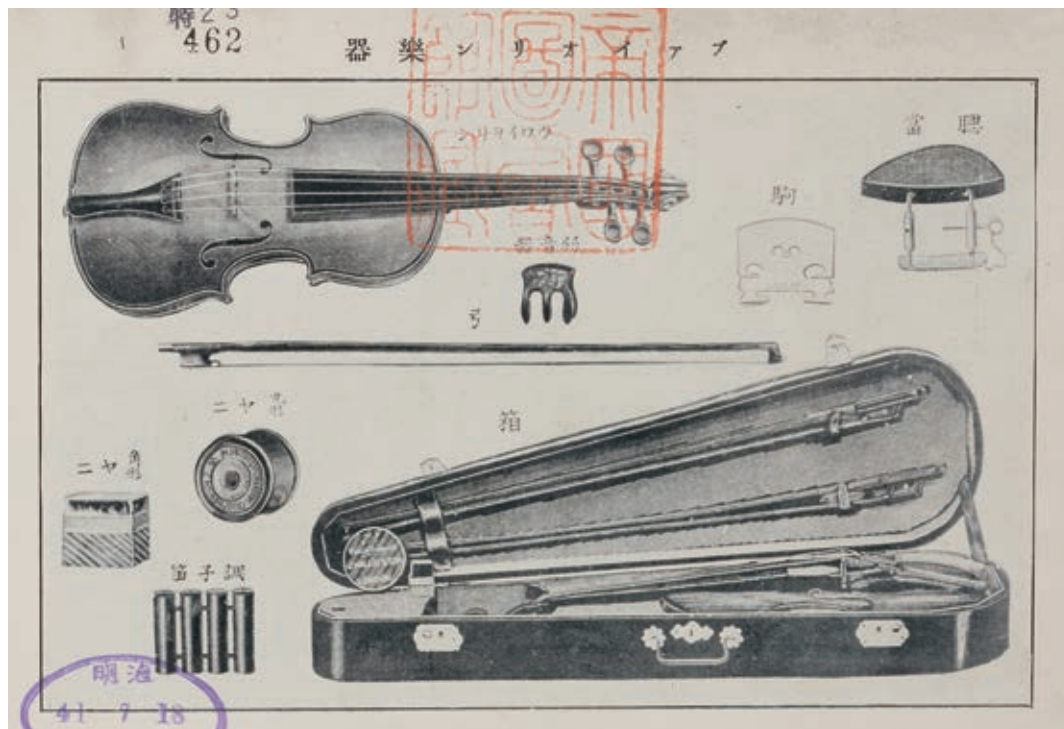
同時期に刊行されたヴァイオリン教則本から、「演奏者の姿勢」の図。着物袴姿の女性が座ってヴァイオリンを構えている。この教則本には「琴三絃尺八と合奏の折の心得」など、明確に和楽器と合奏することを想定した解説もある。



は独自の記号で表されています。その1〜7の数字をヴァイオリン上の左手の運指に対応させた数字譜で楽曲を記載しています。これらの特徴からは、この本が西洋音楽や楽譜になじみがない人々を想定して作られていることがうかがえます。

同様の工夫がなされた教則本や、邦楽曲を集めたヴァイオリン楽譜は、明治30年代後半から40年代にかけてかなりの数の刊行が確認されています。これはこの時期に一般の人々の間で起こったヴァイオリンの流行を反映しています。その流行とは、ヴァイオリンで邦楽曲を奏でる、ヴァイオリンを箏や尺八などの和楽器とともに合奏する、ヴァイオリンを三味線の代用とし着物で座って演奏するなどといった、まさに「和洋折衷」というべきものでした。本書のしがきによると、作者である町田桜園ももとは邦楽の専門家であったようです。²⁾

江戸末期に日本に入ってきたヴァイオリンは、明治の文明開化の流れ、学校での唱歌教育³⁾などを通して一般の人々にも知られるようになり、おりしも国産のヴァイオリンが安く手に入るようになったこととあいまって、明治後期にはこのような気の置けない楽しみ方をする楽器として人々の間で人気を博したのです。



(右) 口絵でヴァイオリンの各部を説明している。

(下) 目次の一部。「君が代」や「紀元節」など邦楽曲が並ぶ。

ハ調應用歌曲の部	
○君が代	25
○紀元節	27
○風車	28
○白蓮白菊	29

1 プロのオーケストラに関しては日本オーケストラ連盟のホームページ (<https://www.orchestra.or.jp/>)、アマチュアのオーケストラに関しては、オケ専 (<https://okesen.snacle.jp/>) を参照。ただし、どちらのサイトも国内に存在する音楽団体すべてを網羅しているわけではない。ヴァイオリン演奏人口については以下のレファレンス事例も参考のこと。
https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000165004

2 町田桜園(本名町田久) (?~昭和3(1928)年)。国立国会図書館には、彼の手による箏の教則本、長唄の全集なども所蔵されている。

3 文部省は当初、学校における唱歌の教育に用いる楽器としてオルガンとヴァイオリンを使用することを試みた。唱歌教育に定着したのはオルガンの方だったが、オルガンに比べて安価な国産ヴァイオリンは学校以外の場にも広まった。

4 文部省が日本に音楽教育を根付かせるため明治12(1879)年に設立した音楽教育機関である音楽取調掛と、その後身である東京音楽学校(のちの東京藝術大学音楽学部)において、ヴァイオリンを含めた音楽の教育を受けている。

○参考文献

松本善三 著『提琴有情 日本のヴァイオリン音楽史』レッスンの友社 1995.11<請求記号 KD263-G10>

堀内敬三 著『音楽明治百年史』音楽之友社 1968<請求記号 762.1-H679o2>

安久津太一、筒石賢昭山「明治時代における邦楽と洋楽の音楽指導の関わり」中尾都山に見る尺八とヴァイオリン楽譜出版の経緯とその背景』『東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系 Bulletin of Tokyo Gakugei University』65.2013.10 東京学芸大学<請求記号 Z11-284>

塩津洋子「明治期関西ヴァイオリン事情」『音楽研究 大阪音楽大学音楽博物館年報』20.2004-10 大阪音楽大学 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10313726>

高橋美雪「明治期のヴァイオリン そのイメージと日本特有の受容の諸相」『一橋研究』25(4)(通号130) 2001.1 一橋研究編集委員会<請求記号 Z22-94>

もちろん、同時期にはヴァイオリンを王道の流儀で導入しようとする流れがなかったわけではなく、例えば作家幸田露伴の妹、幸田延と安藤幸は西洋式の音楽教育を受けたヴァイオリニストとして知られていました。しかし、こういった教育は一部エリートに向けられたもので、多くの市井の人々にとっては身近なものではありませんでした。西洋の文化には憧れがある、ヴァイオリンの美しい音にも惹かれる、しかし西洋の曲にはなじみがないという人々は、身近な日本の楽曲にヴァイオリンを引き寄せることで、新しい文化を楽しもうとしたので

しょう。それはとても自然で柔軟な文化の受け入れ方のように思えます。この和洋折衷のヴァイオリンの流行は、新鮮味が薄れたこと、西洋音楽が一般的になってきたことなどを背景に、大正期になると次第に収まってきました。ヴァイオリンの教育も段々と西洋式へと寄っていきます。しかし、明治の一時期に起こったこの流行は、ヴァイオリンを一般の人々になじみのあるものとしたという点で、現在のヴァイオリンの隆盛に通じる大きな文化的下地を作ったのかもしれない。

上野の図書館 ―『夢見る帝国図書館』 によせて



『夢見る帝国図書館』中島京子著 文藝春秋 2019.5 <請求記号 KH971-M4160>

昨年、帝国図書館など上野の図書館を影の主人公とした小説『夢見る帝国図書館』（中島京子著）が話題となりました。本特集では、『夢見る帝国図書館』を参照しながら、帝国図書館の建物、上野の図書館に通った文豪たち、そしてそれらの図書館から国立国会図書館に引き継がれた文書をご紹介します。

上野の図書館の系譜

国立国会図書館には二つの源流があります。一つは帝国議会貴族院・衆議院の図書館です。

もう一つの源流である上野の図書館の系譜は、明治5（1872）年に開設された文部省所管の書籍館にさかのぼります。『夢見る帝国図書館』で述べられている通り、所管が文部省になったり東京府になったり、博物館と合併したりと、紆余曲折を経て、名前も場所も変遷しました。上野に移転したのは明治18（1885）年、帝国図書館となったのは明治30（1897）年のことです。

明治5（1872）年

書籍館

明治8（1875）年

東京書籍館

明治10（1877）年

東京府書籍館

明治13（1880）年

東京図書館

湯島聖堂の大成殿にて

明治18（1885）年

上野に移転



明治30（1897）年

帝国図書館

明治39（1906）年

現在の建物を新築



上から、湯島の大成殿、上野に移転した東京図書館、明治39（1906）年新築時の帝国図書館。

昭和22（1947）年

国立図書館

昭和24（1949）年

国立国会図書館
支部上野図書館

平成12（2000）年

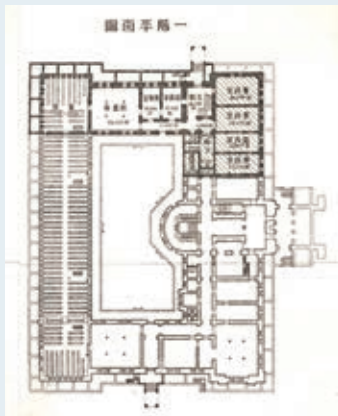
国立国会図書館
国際子ども図書館

写真で見る帝国図書館



増築後の写真

文部省所管の東京図書館は、公共図書館として機能していましたが、全国規模の図書館設立が求められていました。東京図書館長であった田中稲城の尽力により、明治29(1896)年、「帝国図書館ヲ設立スルノ建議案」が帝国議会で可決、明治32(1899)年、上野公園内音楽学校敷地にある空地に建設されることになりました。三期にわたる建築計画を立てられ、予算は各期50万円でしたが、日清戦争後の極東情勢緊迫のため第一期工事は32万円に抑えられました。その後、昭和2(1927)年から昭和4(1929)年まで増築工事が行われましたが、予定の三分の一も完成せず、「未完の図書館」のままとなりました。



本来はこの図面にあるとおり、「口」字型の建物となる予定でした。実際には図面の上部、本来であれば建物の側面になるはずだった部分のみの建築となりました。

ルネッサンス様式の建物は、ベージュと明るいグレーの化粧煉瓦をフランス積みにした三階建てで、美しい草色の銅板屋根が載っており、緩いアーチをてっぺんにつけた大きな窓がついている。

支部上野図書館として老朽化が進んでいた建物を、日本ではじめての国立の児童書専門図書館「国際子ども図書館」とすることになり、建築家・安藤忠雄氏の参画を得て、改築が行われました。平成12(2000)年に昭和期部分を、平成14(2002)年に明治期部分を改築し、開館しました。現在は「レンガ棟」と呼んでいます。平成27(2015)年には新たに弓状の建物「アーチ棟」を建築しました。



国際子ども図書館レンガ棟



国際子ども図書館アーチ棟



詩人土井晩翠が、夭逝した長男土井英一の遺言により設置した小泉八雲記念碑。台上の銅像は小倉右一郎作「蜜」です(p.23の関係文書もご覧ください)。

帝国図書館・ 支部上野図書館 時代

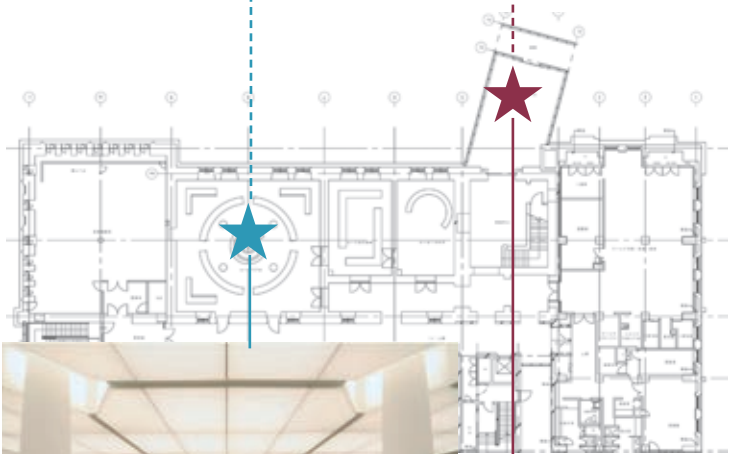
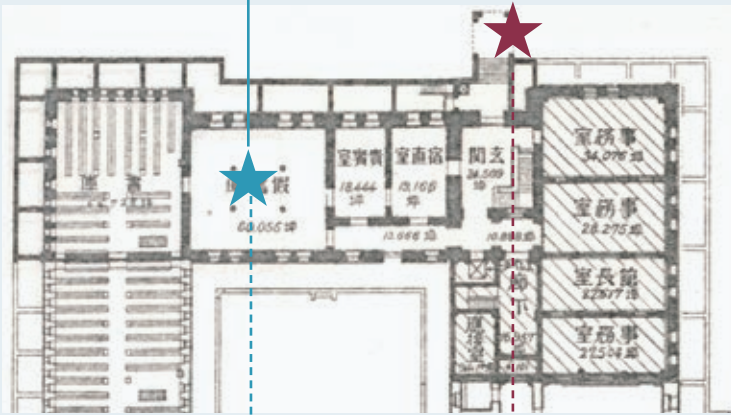
閲覧室 (昭和 30 ~ 40 年頃)

書棚には金網が貼ってあり、利用者は職員に申し出て資料を利用していました。



玄関

昭和 4 ~ 20 年頃の写真。車寄せで入館を待つ人々。



子どものへや

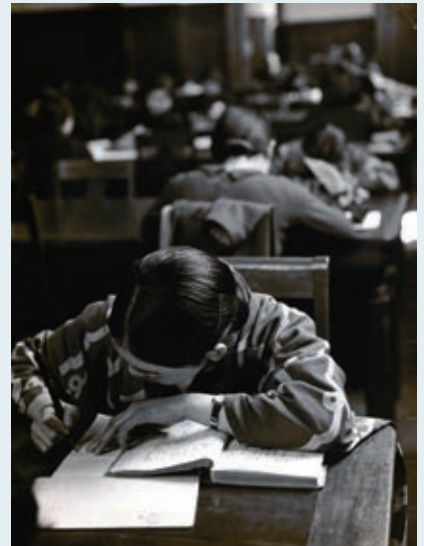
エントランス



「前は地下に食堂があったの。ミキヤさんて言ったかな。ライスカレーとか親子丼なんか、おいしかったのよ。それから床屋さんもあつてよ。」

1 階

現在



婦人閲覧室

昭和4～20年頃の写真。和装に腕時計をしています。戦前はほとんどの図書館で女性専用の部屋や席が設けられていました。

特別閲覧室

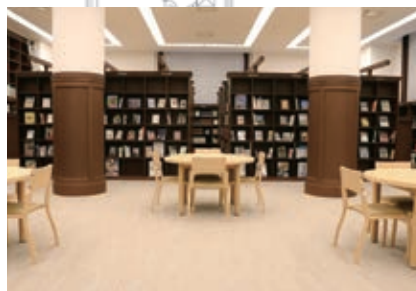
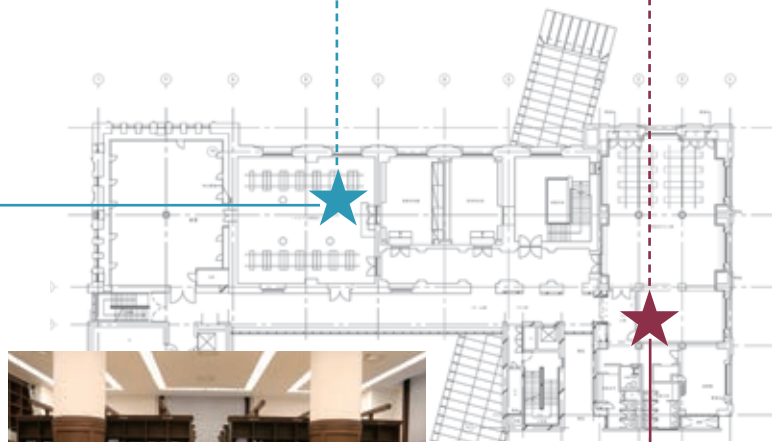
明治39～昭和4年の写真。大きな漆喰の柱が印象的です。昭和の増築後は図書出納室となりました。



2階



児童書ギャラリー



調べものの部屋



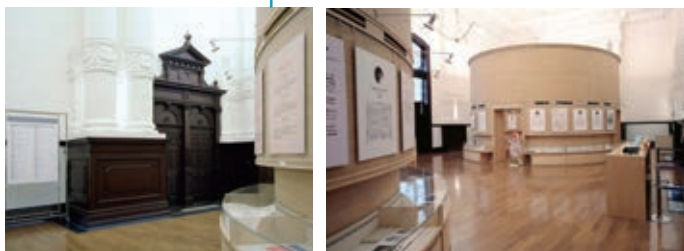
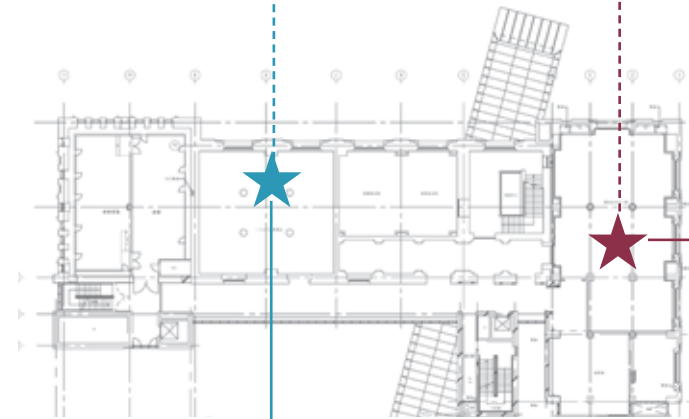
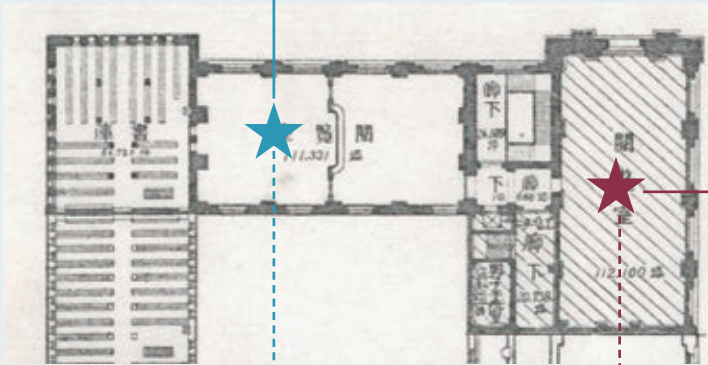
普通閲覧室 (戦前)

明治 39 ~ 昭和 4 年の写真。昭和後期には内装に剥離があるなど危険だったため、使われていませんでした。



閲覧室 (戦後)

昭和 30 ~ 40 年頃の写真。男女が同席しています。また、現在は無い暖房器具用のパイプが目につきます。



扉は現在も書庫に通じる扉として残っています。

本のミュージアム

「つちに図書室があつただけ。あらまあ、こんなにきれいになつちやつて、なんだか違うねえ。」

3 階



ホール

昭和期の照明を再現しました。

右は、現在は撤去された貨物用エレベーターの設備。地階から8層までの数字が見えます。



おすとあく

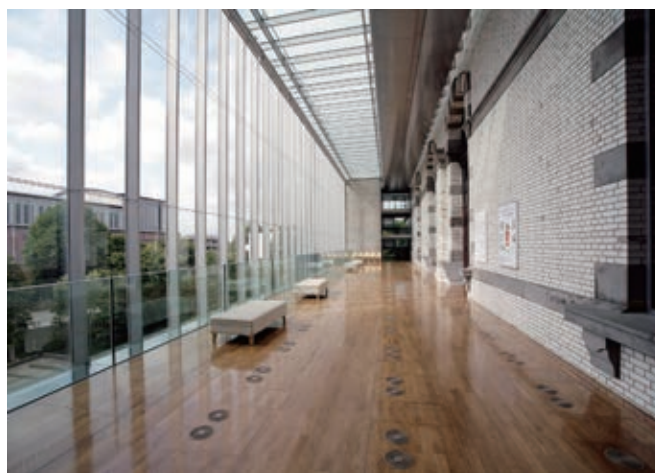
階段前室の扉には「おす登あく」と書いてあります。西洋式の扉に慣れていない人への案内でした。



あたちは おいちゃんの
りゅつぐさつくのなかへ はいって
いっしょに としょかんに
かよいます。
よるになると としょかんのひとは
みんな いえに かえってしまいます。
でも あたちと おいちゃんは ちがいます。
よるの としょかんに ねとまりをするのです。

ラウンジ

屋外壁を屋内化し、レンガを間近で見られるようにしました。



斜体は『夢見る帝国図書館』からの引用です。
参考：
第125回常設展示 帝国図書館の誕生
<https://nnavi.ndl.go.jp/kaleido/entry/jousetsu125.php>
国際子ども図書館ホームページ「建物の紹介」
<https://www.kodomo.go.jp/about/building/index.html>

上野の図書館に来た文豪、

読んだ本

文豪たちが残した日記や随筆には、上野や湯島の図書館での思い出が多数残されています。ここでは、その引用のほか、文豪たちが読んだと記している本について、実際に手にとって読んだかもしれないものを、上野の図書館の旧蔵書（現在は国立国会図書館の蔵書）から、推定しました。



樋口一葉

(1872-1896) 歌人、小説家。明治 25 (1892) 年に発表した『うもれ木』が出世作となるが、明治 29 (1896) 年、肺結核で死去。小説『にごりえ』『たけくらべ』などのほか、日記も残した。

図書館は例之いと狭き所へをし入らるゝなれば、さこそ暑さもたえがたからめとおもひしに、軒高く窓大きなればにや、吹かよふかせぞろ寒きまでなる、いと嬉し。

—明治24年8月8日

一葉の日記には、明治24(1891)年から明治26(1893)年にかけて、頻繁に上野の図書館(東京図書館)へ通う記事を見出すことができます。ときには、お灸をすえてから図書館に向かうこともありました。

小説の「たねさがし」のためもあり、読んだ本は、漢詩や「太平記」から『哲学界雑誌』まで、多岐にわたります。なお、「いと狭き所」とは婦人閲覧室を指します。一葉が通った明治20年代、女性の利用者は少数でした。



『花月草紙』にねぶりをさまして、『月なみ消息』の流暢なるをうらやましようおもふもかひなし。

—明治24年9月26日

多くの男子の中に交りて、書名をかき、号をしらべなどしてもて行に、「これは違ひぬ。今一度書直しこ」などいわれるれば、おもて暑く成て身もふるべし。

—明治24年8月8日

『月次消息』橋千蔭 著 日新館 明 18.10
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/866305> (モノクロ画像)
江戸中期から後期にかけての国学者、加藤(橋)千蔭による往来物(手紙の文例集)。当館所蔵本には東京図書館の蔵書印がある。なお本書は、千蔭と同じ賀茂真淵門下の鞠殿余野子が執筆し、千蔭が清書したとも言われている。

『花月草紙 6巻』[松平定信 著] [18-]<請求記号 144-88>
江戸時代の随筆。定信が老中を致仕した後、寛政8(1796)年以降の成立とみられる。当館所蔵本には東京府書籍館の蔵書印がある。

See also...

「文人たちの手にした洋書 翻訳の底本になった帝国図書館蔵書」(『国立国会図書館月報』630(2013年9月)号)、「乱歩と活動写真 リサーチの場としての帝国図書館」(同上698(2019年6月)号)



夏目漱石

(1867-1916) 小説家、英文学者。代表作に『坊ちゃん』『三四郎』『それから』『こゝろ』『明暗』など。近代日本の代表的作家とされる。

漱石は子どもの頃「聖堂の図書館」(東京図書館)に通って、荻生徂徠の『護園十筆』を写し取ったことがあったそうです。明治43(1910)年の修善寺の大患のあと、送られてきた漢籍を筆写しながらそのことを思い出し、子ども時代の「無邪気な努力」が病身には「非常な幸福」に感じられる、と記しています。



『護園十筆』巻2-8, 10 [荻生徂徠 著] [1---] [写] < 請求記号 142-12 > 江戸中期の儒学者である徂徠による随筆。護園は徂徠の号。当館所蔵本には東京書籍館の蔵書印がある。

子供の時聖堂の図書館へ通って、徂徠の護園十筆を無暗に写し取った昔を、生涯にたゞ度繰り返し得た様な心持が起つて来る。

— 『思ひ出す事なご』



幸田露伴

(1867-1947) 小説家、随筆家、考証家。小説に『風流仏』『五重塔』、史伝に『運命』など。

私は毎日行くんです。すると淡島がやはり毎日来てる。あの人には綽名がついてゐて、燕石十種先生つて。

— 「幸田露伴氏に物を訊く座談会」



淡島寒月

(1859-1926) 小説家、俳人、好事家。江戸文学、なかでも井原西鶴の研究、紹介につとめ、明治の文壇に影響を与えた。

寒月が「燕石十種先生」というあだ名がつくほど日々筆写するきっかけとなったのは、『燕石十種』のなかに『戯作者六家撰』特に、山東京伝や式亭三馬などの名前を見出したからでした。そうして東京図書館に毎日通ううち、幸田露伴らと知り合い、井原西鶴の作品を紹介するなど親交を結びました。

「つ写し二つ写して『燕石十種』本六十冊の中、一三十冊も写しました。その中に図書館で始めて幸田露伴君に遇つて、交を結んだのです。」

— 「耽奇談」

『燕石十種 6輯』達磨屋活東子編 岩本蛙磨補 [18-] [写] < 請求記号 わ081-10 >

文久3(1863)年に成立。「燕石」は玉に似た石、まがいもの意味である。江戸時代の興味深い風俗書を集成成した叢書。





菊池寛

(1888-1948) 小説家、劇作家。雑誌『文芸春秋』を創刊。小説に『真珠夫人』『恩讐の彼方に』、戯曲に『父帰る』など。

私は、卒業後東京へ出て来ると、着京の翌日直ぐ上野図書館へ行つた。そして、その無尽蔵な蔵書を見て、大歓喜の情を感じたものである。

―「半自叙伝」―

そんな菊池が読んだ本に『演芸画報』があります。二代目市川左団次を最肩にしていたとのこと。一高（第一高等学校）のクラスでは劇通の一人であると言っていました。
なお、菊池には、帝国図書館の下足番をモチーフにした短編『出世』があります。



『演芸画報』明治43（1910）年10月号 演芸画報社<請求記号 雑35-55> 明治40（1907）年に創刊された演劇雑誌。歌舞伎を中心に、毎月東西の各劇場の舞台写真や劇評などの記事を掲載し、演劇総合誌として親しまれた。右上画像は二代目市川左団次。

こんなに高い天井の下に坐るのは生まれ始めて始めてだとしみじみ思った。そうして何ともいえない幸福な気持ちになった。（中略）これらの本の厚ぼったい紙から発散してくる匂いは、何とも言えず香ぐわしい、快い匂いであった。

―「半世紀前の東京」―

和辻哲郎が上京したのは、帝国図書館の新館が開館した十日ほど後です。新築直後の帝国図書館に鮮烈な印象を抱きました。これまで見たいと思いつながら見ることのできなかったいろいろな本、とりわけ19世紀英国の詩人の本を次々と借り出しては、そのページの発する香りまで堪能しました。



和辻哲郎

(1889-1960) 哲学者、倫理学者。京都帝国大学・東京帝国大学教授。著作に『ニイチェ研究』『倫理学』『古寺巡礼』『風土』など。

『自叙伝の試み』24-27 和辻哲郎 著 [1959] 自筆
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2532432>
『中央公論』昭和34（1959）年5-8月号の直筆原稿。照夫人により寄贈。
※和辻が読んだ本ではありませんが、当館では直筆原稿を所蔵しているので紹介します。





谷崎潤一郎

(1886-1965) 小説家。代表作に『春琴抄』『細雪』など。

大正6(1917)年に発表された『ハッサン・カンの妖術』は、帝国図書館で同じ目録カードボックスをひこうとしたことから、主人公があるインド人と知り合う話です。最後はそのインド人の導きで魔術世界に入り込んだところで終わります。静謐な帝国図書館は、摩訶不思議な世界へのきっかけでした。

白い柔かい雲の塊が、巍然として聳え立つ図書館の三階の屋

根の上を、緩く絶え間なく越えて行くのであった。

—『ハッサン・カンの妖術』

彼は帝国図書館の与えた第一の感銘をも覚えてい

る。——高い天井に対する恐怖を、大きい窓に対

する恐怖を、無数の椅子を埋め尽した無数の人々

に対する恐怖を。が、恐怖は幸いにも二三度通う

うちに消滅した。彼はたちまち閲覧室に、鉄の階

段に、カタロオクの箱に、地下の食堂に親しみ出し

た。

—『大導寺信輔の半生』



芥川龍之介

(1892-1927) 小説家。代表作に『羅生門』『河童』『奉教人の死』など。昭和2(1927)年36歳で自殺。

『ハッサン・カンの妖術』は、3年後、

芥川によって『魔術』という作品に潤色

されました。「ある友人の紹介でミスラ

君と交際していました」と書かれた「友

人」は谷崎を指しているのでしょうか。谷

崎と芥川は良きライバルで、文学論争

を戦わせたこともあります。なお、芥

川の自伝的小説『大導寺信輔の半生』

にも帝国図書館が登場します。



宮澤賢治

(1896-1933) 詩人、童話作家。大正13(1924)年に詩集『春と修羅』、童話集『注文の多い料理店』を自費出版。農民指導にも尽くした。代表作に『風の又三郎』『銀河鉄道の夜』など。

「図書館幻想」と「われはダルケを名乗れるもの」とに、帝国図書館が登場します。大正10(1921)年ころ、賢治は上京し帝国図書館を訪れていました。ダルケが誰を指すのかについては諸説あります。ダルケとの冷やかな別れが、がらんとした帝国図書館を舞台として描かれています。

室の中はガランとしてつめたく、せいひの低いダルケが手を額にかざしてその巨きな窓から西のそらをじつと眺めてゐた。

—「図書館幻想」

われはダルケを名乗れるものと

つめたく最後のわかれを交はし

閲覧室の三階より、

白き砂をはるかにたどるこゝちにて

その地下室に下り来り

—「われはダルケを名乗れるもの」と「」



吉屋信子

(1896-1973) 小説家。キリスト教的な理想主義や女性的な叙情で女性読者に広く受け入れられた。小説『地の果てまで』『良人(おつと)の貞操』『鬼火』など。



『紅葉全集 第1巻』尾崎紅葉著 博文館明37 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/886305> (モノク口画像)

何んだかとてもすべての感触がラフで陰惨でした。(中略) 図書館へ行った頃を思ふと、いろいろ(な)かしく泪ぐまれるやうな思出ばかりです。

「図書館のこと」

紅葉全集を読破すべく勇んで来館したものの、出入り口は薄暗くて重苦しく、職員は官僚的、本を借り出す際はお裁きを受ける人民のような気持ちになるなど、あまり良い印象は持てなかったとのこと。しかし、それもまた懐かしい思い出になったようです。

■引用の典 ●樋口一葉：『蓬生日記 一』『無題』『全集樋口一葉 3 日記編』小学館 1996.11<KH134-G1> ●夏目漱石：『思ひ出す事など六』『定本漱石全集 第12巻 小品』岩波書店 2017.9<KH884-L2309> ●淡島寒月：『耽奇談』『梵雲庵雑話』紅野敏郎解説 平凡社 2009.9<KH811-L3531> ●幸田露伴：『幸田露伴氏に物を訊く座談会』『露伴全集 第41巻(別冊)』岩波書店 1980.1<KH275-3> ●菊池寛：『半自叙伝』『菊池寛全集 第23巻』高松市菊池寛記念館 1995.12<KH261-E4> ●和辻哲郎：『自叙伝の試み』『和辻哲郎全集 第18巻』安倍能成[ほか]編 岩波書店 1990.10<HA144-E3> ●谷崎潤一郎：『ハツサン・カンの妖術』『谷崎潤一郎全集 第5巻』中央公論新社 2016.10<KH934-L2347> ●芥川龍之介：『大導師信輪の半生』『芥川龍之介全集 第8巻』角川書店 1968<918.6-A414a2-k> ●宮澤賢治：『図書館幻想』『<新>校本宮澤賢治全集 第12巻』宮沢清六[ほか]編纂 筑摩書房 1995.11<KH361-E15>;『[われはダルケを名乗れるものと]』『<新>校本宮澤賢治全集 第7巻』宮沢清六[ほか]編纂 筑摩書房 1995.8<KH361-E15> ●吉屋信子：『図書館のこと』『処女読本』健文社 1936.5<KH747-E215> ●宮本百合子：『図書館』『宮本百合子全集 第16巻』新日本出版社 2002.1<KH359-H6> ■参考文献 ●全体：高橋和子「作家と図書館(一)―作品に描かれた図書館像―」『相模国文』第2号 1975.2<Z13-2080> ●樋口一葉：『につ記』『全集樋口一葉』3 日記編 小学館 1996.11<KH134-G1>、高橋和子「樋口一葉と上野図書館―葉日記を通して―」『相模国文』第19号 1992.3<Z13-2080>、高野奈未「鶴殿余野子『月なみ消息』考」『賀茂真淵の研究』青簡舎 2016.2<HA22-L3> ●夏目漱石、淡島寒月、幸田露伴：『波川驍』『夏目漱石と帝国図書館』『読書春秋』6巻1号 春秋会 1955.1<Z21-155> ●菊池寛：『図書館』『菊池寛全集 第14巻』中央公論社 昭和13<732-91>、高橋和子「菊池寛の図書館体験」『相模国文』第18号 1991.3<Z13-2080> ●宮本百合子：『日記1』『宮本百合子全集 第26巻』新日本出版社 2003.6<KH359-H7>、高橋和子「宮本百合子と図書館」『相模国文』第7号 1980.3<Z13-2080>、宮崎真紀子「戦前期の図書館における婦人室について―読書する女性を図書館はどう迎えたか―」『図書館界』53巻4号(通号301) 日本図書館研究会 2001.11<Z21-131> ■肖像の典 ●樋口一葉、夏目漱石、芥川龍之介：電子展示会「近代日本人の肖像」 <https://www.ndl.go.jp/portrait/index.html> ●淡島寒月：『寒月余影』阿部探果編 平沢勤吉 昭和2<213-601> ●幸田露伴：『現代随想全集 第29巻(幸田露伴、森鷗外、夏目漱石集)』創元社 1954<914.6-G295> ●菊池寛：『菊池寛全集 第1巻』改造社 昭和6<913.6-K154k6> ●和辻哲郎：『読売グラフ』446号 読売新聞社 1955.11<Z051.4-Y1> ●谷崎潤一郎：『神童』須原啓興社 大正5 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/906115/4> (モノク口画像) ●宮澤賢治：『宮澤賢治全集 第2巻(詩坤巻)』高村光太郎等編 十字屋書店 昭和15<670-19イ> ●吉屋信子：『現代長篇名作全集 第7(吉屋信子集)』日本文芸家協会編 大日本雄弁会講談社 1953<913.608-G297-N> ●宮本百合子：『昭和文学全集 第8(宮本百合子集)』角川書店 1953<918.6-5y961> ※ < > は当館請求記号



宮本百合子

(1899-1951) 小説家。プロレタリア文学の作家として、弾圧を受けながらも執筆活動を続け、戦後は民主主義文学運動で活躍した。代表作に『伸子』『播州平野』『道標』など。



『慶長年間江戸図考』梅龍園主人[著] [18-][写] <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533242> 地図の内容は慶長13(1608)年ごろのもの。ただし、実測によると思われる正確さ、門を頭とする屋敷主名の記入法などからみて、後世の復元図との見方が有力である。

宮本百合子は、女学生の頃から帝国図書館を利用していました。古地図や江戸風俗の本から、精神病学の本まで、様々な本を読んだようです。戦後にまた訪れたときの印象は特徴的です。

戦争はその結果としていろいろの変化をもたらした。けれども、この役人くさい図書館が、やっと世間なみに、男女共通の閲覧室をもつ決心をしたということには一種のユーモアがある。

「図書館」

文書で紐解く上野の図書館

—デジタルコレクションで見る帝国図書館文書

国立国会図書館には、「上野の図書館」の歴史を知るための記録が引き継がれています。設計図、統計等から、疎開や震災、検閲に関する記録等、帝国図書館が国立国会図書館に至るまでの歴史を紐解く貴重な資料です。当館では、順次デジタル化を進め、2020年3月に国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>) で、約200点の提供を開始しました。ここでは、その中から特徴のある資料をご紹介します。文書の中に生き続ける、帝国図書館の面影を感じていただければと思います。

統計

『最多数閲覧図書、職業、宿所分類表』

帝国図書館 明治37年12月-明治39年11月
請求記号 帝文-671

分野別の閲覧数、職業別・居住地別の来館者数などを記録したものです。ここから一日の平均来館者数を計算してみると明治39(1906)年の「新館」への移転前は約400人、移転後は600人を超え、大幅に増加していることが分かります。『帝国図書館年報摘要』⁽¹⁾には、新館は同時に300人が入ることができるとの記述もあり、スペース不足の悩みもやや改善できたようです。

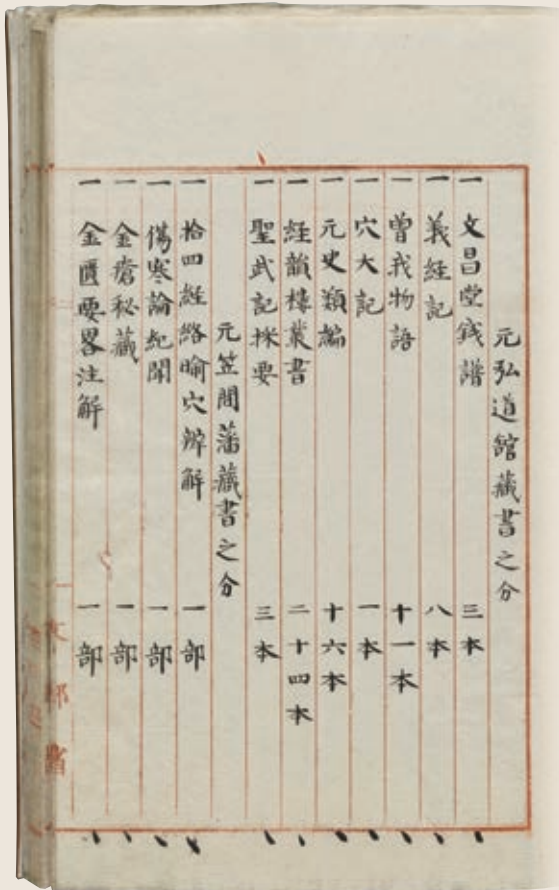
職業、宿所分類表 明治39年5月31日
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447431/97>
学校名、職業名、居住地が詳細に記録されています。学生の利用が65%もあり、とても多かったことが分かります。

明治三十八年九月中閲覧人事故表
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447431/77>
“事故”についての記録も1枚だけ綴じられています。閲覧証の紛失、偽名での利用、書籍への落書きなどが若干名。閲覧室での居眠りで361件、お喋りで302件の注意があったようです。

藩校から

『和漢書籍交付書類』

東京書籍館 明治9年1月<請求記号 帝文-611>



明治5(1872)年に文部省所管で成立した書籍館は、翌年には太政官正院博覧会事務局と合併しました。明治8(1875)年に再び文部省の所管となり、東京書籍館と改称し、文部省からの交付本によって再開しました。その際の蔵書は、洋書が過半数を占め、利用者が望む和漢書は乏しい状態でした。そこで、明治8年から9(1876)年にかけて、各府県所有の旧藩襲蔵書の交付を受けて、蔵書の基幹としました。これらは今に引き継がれ、国立国会図書館の和漢書の基盤となっています。ここではそのうち明治9年分の交付簿を紹介します。

茨城県の例

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447374/115>

茨城県からは旧水戸藩の藩校である弘道館の蔵書等が差し出されました。目録には、現在も当館蔵書として伝わる『文昌堂錢譜』等の書名が見られます。



(参考)『文昌堂錢譜5巻』

青山延于 編 写<請求記号 ば-48>

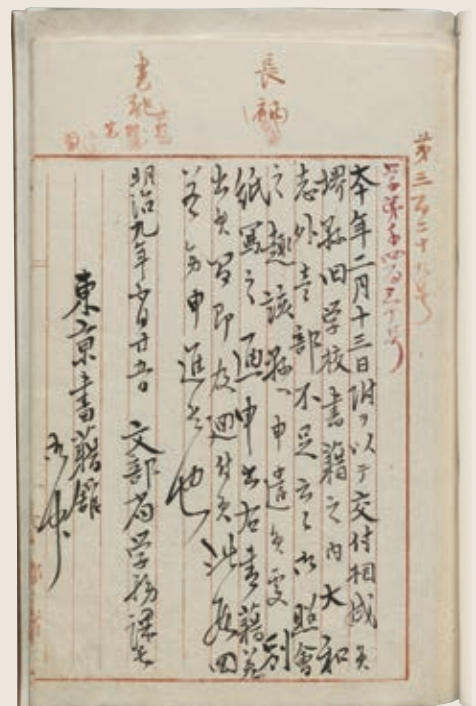
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533116/3>

左上から時計回りに、東京書籍館の蔵書印、弘道館の蔵書印、「明治九年文部省交付」の印が見られます。

堺県²の例

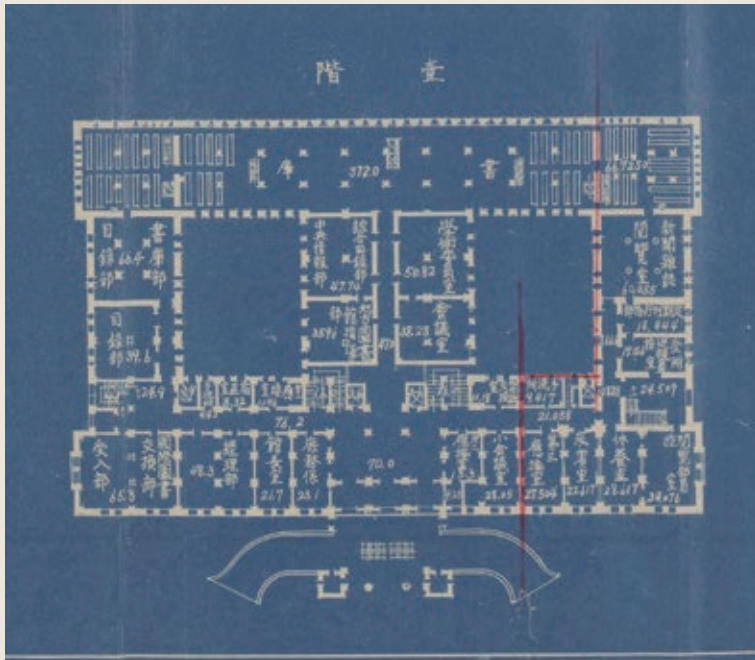
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447374/149>

交付に当たっては、梱包中に脱落があり欠本のケースがあったようです。この文書からは、東京書籍館が文部省を介して必要に応じて県に対して照会を行っていたことがわかります。



『帝国図書館平面図』

[帝国図書館] <請求記号 帝文-47 >



「帝国図書館増築平面図」(縮尺六百分の一)のうち一階部分

<https://dl.ndl.go.jp/info.ndljp/pid/11447353/21>

この文書で特に興味深いのは「帝国図書館増築平面図」と題されたもので、口の字型をした「全設計平面図」(p.9)とは異なり、中央にも部屋がある、「帝国図書館設立案⁴⁾」収録の図面に近い形です。広い書庫、閲覧室、講堂、陳列室等を備え、事務スペースも充実した、夢の図書館が目に見えます。いつ書かれたものかは不明ですが、1階部分に書き足された赤い線は、第二期工事での増築後の形を示しているようです。

帝国図書館から戦後の上野図書館までのフロアごとの図面や周辺図等が綴じられた文書類です。
帝国図書館の建築計画は三期に分かれ、東洋一の図書館を目指した壮大な「全設計平面図」⁽³⁾が残されています。しかし、日露戦争による財政難で、第一期(明治39(1906)年)にはその四分の一、第二期(昭和4(1929)年)でも三分の一までしかできあがらず、建物は未完のままとなりました。

「帝国図書館平面図」(縮尺六百分の一)

<https://dl.ndl.go.jp/info.ndljp/pid/11447353/25>

周辺図では、東京音楽学校・東京美術学校(現在の東京芸術大学)に重なる形で、「将来増築サルベキ建物」として、帝国図書館が示されています。

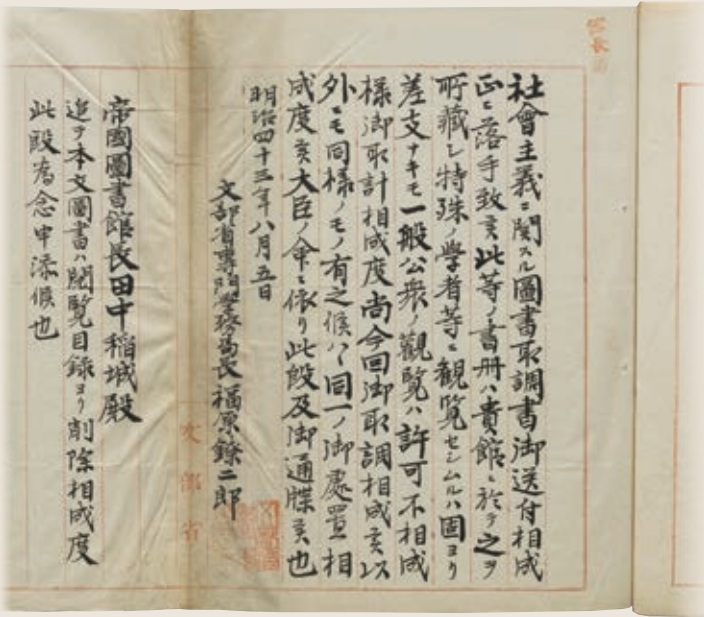


平面図

検閲

『出版物検閲通牒綴』

[帝国図書館] 明治 43 年 -45 年<請求記号 帝文-1311 >



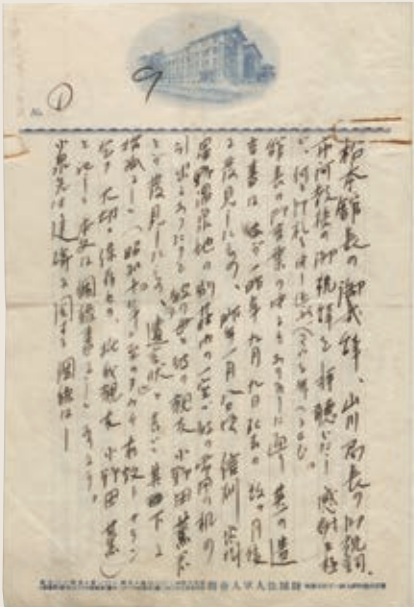
明治 43 年 8 月 5 日付け文書
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447515/9> ※館内限定公開
帝国図書館が、蔵書の中から社会主義に関する図書の目録を作成して文部省に上申し、文部省から、学者は良いが一般公衆には閲覧させないようにという指示が出たことがうかがえる文書です。

出版法規により発売頒布が禁止された図書についての通知を綴ったものです。通知には禁止図書のリストが添付されており、処分を受けた本の全容がわかります。大逆事件の検挙が始まった明治 43 (1910) 年から昭和の戦中期まで存在しました。ここでご紹介する明治期の通知のほかに、『夢見る帝国図書館』に登場する、太平洋戦争の始まった昭和 16 (1941) 年の通知等も所蔵しています。

明治 44 年 6 月 30 日現在「禁止出版物」

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447515/131> ※館内限定公開
「社会主義及破壊思想ヲ帯ヒタルモノ」として、処分を受けた出版物のリストです。片山潜、幸徳伝次郎(秋水)等の社会主義者や、劇作家の小山内薫の名が見られます。

題	著者	発行所	備考
社会党	西川光次郎	社会主義図書部	社会主義図書部
社会主義神髓	片山潜	社会主義図書部	社会主義図書部
社会主義と神	幸徳伝次郎	社会主義図書部	社会主義図書部
社会問題	大橋省吾	社会主義図書部	社会主義図書部
良人の告白	木下尚江	平民書房	平民書房



土井晩翠挨拶文の原稿

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447464/29> ※館内限定公開

記念冊子によれば、除幕式の最後には土井晩翠があいさつしたとあり、その原稿が残されています。実現に向けて奔走する晩翠の姿、関係者への感謝の気持ちが伝わってきます。



「小泉八雲先生建碑記念」絵葉書（昭和10年6月）

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447464/15> ※館内限定公開

現在も国際子ども図書館の前庭に建つ「小泉八雲先生記念碑」(p.9)の記録です。この記念碑は、詩人土井晩翠(林吉)が、夭逝した長男土井英一の遺言により建てたもので、欧米への日本紹介に貢献した小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)を顕彰するものです。松本喜一館長が、晩翠に英語を習い、八雲の講義を受けていた縁もあり、その寄付を受けました。文書には、除幕式の記念冊子とその原稿、絵葉書、関連記事等が綴じられています。

『小泉八雲碑関係資料』

帝国図書館 昭和10年

<請求記号 帝文-709>

記念碑

1『帝国図書館年報摘要 明治39年度』<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/897121/3> (モノクロ画像)

2明治時代初期に置かれた。大阪府に併合されて現在に至る。

3『帝国図書館概覧』に収録。<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1907914/7>

4『帝国図書館設立案』に収録。<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11286069/9>

○参考文献

『上野図書館八十年略史』国立国会図書館支部上野図書館 1953<請求記号 016.11-Ko5488u>

岡田温「終戦前後の帝国図書館」『図書館雑誌』59(8) 1965.8<請求記号 Z21-130>

『台東区史 社会文化編』東京都台東区 1966<請求記号 213.6-To458t4-(s)>

大滝則忠「戦前期出版警察法制下の図書館 その閲覧禁止本についての歴史的素描」『参考書誌研究』(2) 1971.1 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3050851/1>

石黒宗吉「上野図書館 その栄光と苦渋の一世」『国立国会図書館月報』132号 1972.3<請求記号 Z21-146>

西村正守「上野図書館揭示板今昔記 その6 非常時下のこと」『国立国会図書館月報』141号 1972.12<請求記号 Z21-146>

佐野力、西村正守「東京書籍館における旧藩蔵書の収集」『図書館研究シリーズ』15 1973.2<請求記号 Z21-127>

西村正守「刻む百年の歩み 上野図書館文書」『参考書誌研究』(12) 1976.3 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3050996/1>

大滝則忠、土屋恵司「帝国図書館文書にみる戦前期出版警察法制の一側面」『参考書誌研究』(12) 1976.3 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3050998/1>

国立国会図書館編『国立国会図書館三十年史』国立国会図書館 1979.3<請求記号 UL214-7>

能勢信二「国立図書館の原点を探る—上野図書館建設の道のり」『国立国会図書館月報』320号 1987.11<請求記号 Z21-146>

国立国会図書館百科編集委員会編『国立国会図書館百科』出版ニュース社 1989.9<請求記号 UL214-E6>

「特集 上野図書館」『国立国会図書館月報』427号 1996.10<請求記号 Z21-146>

『国際子ども図書館事業記録集 明治の煉瓦建築「旧帝国図書館」の保存と再生』国土交通省関東地方整備局営繕部 2002.3<請求記号 UL521-H5>

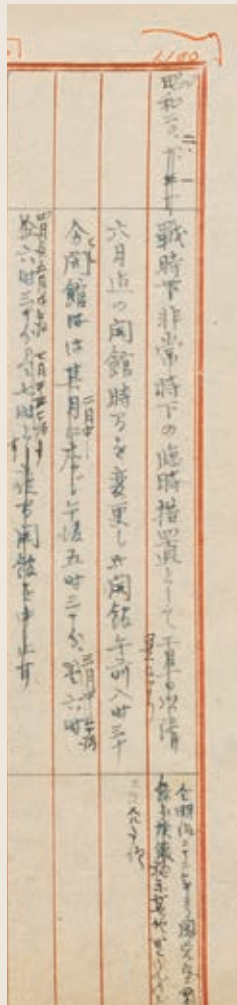
年表

『上野図書館沿革史料集』

[国立国会図書館支部上野図書館]

[昭和27年頃]<請求記号 帝文-

-35>



明治4(1871)年の文部省設置から、支部上野図書館開館80周年記念式典を挙行した昭和27(1952)年頃までの年表の稿本です。資料の抜書きのためか順不同で、未完のようです。

戦時下の臨時措置

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447349/108>

空襲警報発令の場合は直ちに閲覧事務を停止するなどの措置を定めたこと(昭和18年9月2日)、開館時間を短縮したこと(昭和20年2月1日(左画像)、3月15日、6月1日)などが記されています。状況が厳しくなる中でしたが臨時休館はせず、閲覧・参考業務は続けられました。

あの人蔵書

堀田両平コレクション

河合将彦

堀田良平の履歴

堀田良平（1913・1989）は、名古屋で明治12（1879）年に創業された堀田時計店（現・株式会社ホッタ）の4代目社長です。昭和10（1935）年に家業の時計卸・小売商を継承しますが、昭和13（1938）年に応召のため一時休業、復員後の昭和22（1947）年に妻の実家の2階を借りて再建した堀田良平商店が、翌年堀田時計店となり、現在の株式会社ホッタに繋がっています。戦後の品不足の中、小さな時計卸商から家業を再興し、時計と宝石の大手商社を築き上げた堀田良平を、現在の社長は、もう一人の創業者と紹介しています。

なお、本名は「良平」ですが、昭和26（1951）年からは、ほとんどの場面で「両平」を使用しました。堀田良平の父堀田六造と親しい日本画家の伊東深水が、「両平」の方が字画がよいとアドバイスしたからとのこと。当館では「堀田両平コレクション」としてありますが、著書には「堀

田良平」のものもあります。この記事では、個人名は「堀田良平」、コレクションは「堀田両平」で表記します。

堀田両平コレクションの概要

堀田良平は、時計そのものはもちろん、時計や暦に関連したあらゆるものの蒐集家としても有名で、全米時計蒐集家協会（NAWCC）の日本支部の事務局長も務めました。その膨大な収集成果のうち、書籍や文書等約6,000点が昭和62（1987）年に本人により国立国会図書館に寄贈され、堀田両平コレクションとなっています。

コレクションには、出版された資料はもちろん、以下のような、保存されにくい、もしかしたら当館にしか残っていないものも多数含まれます。

- ・時計の保証書
- ・時計がデザインされた紙ナプキン、コースター



- ・時計が当たる抽選券
- ・時計販売マニュアル
- ・銀行が新社会人に配布した時間に関する小冊子

この他、時計や暦が題材となっている浮世絵や、1960年代から取り扱うようになった宝石に関する資料も、それだけで一つのコレクションと呼べるほど充実していますが、今回は暦と時計に絞ってご紹介します。

See also...

- 「寄贈二話——古暦・天文、時計及び宝石関係資料の2大コレクション」
（『国立国会図書館月報』319（1987年10月）号）
「トラスト王のコレクション・カタログ」（同上 645（2014年12月）号）
「海を渡った錦絵カレンダー——川俣絹布整練株式会社明治四十三年カレンダー」（同上 681（2018年1月）号）

引札曆

引札曆とは、商店が配っていた広告（引札）のうち、曆が入ったものです。江戸時代は、曆師が天文方の許可を得て略暦（よく使う部分を抜粋したもの）を発行していましたが、明治16（1883）年に略暦の作成が自由になったことから、曆と幕末から流行していた引札を合わせた引札曆が多数作られるようになりました。

一年間貼られるため、広告効果も高かったでしょう。曆が全面のものもあれば、曆はごく小さく絵が大半のものもあり、その絵も、縁起のいいもの、歴史上の人物、時事のものまで、バラエティーに富んでいます。現代でも、企業がカレンダーを作り、得意先に配布することが多くありますが、その原形といえます。堀田両平コレクションには約560種類の引札曆があります。



明治三十七甲辰年略曆 <請求記号 VF6-F8-17>

明治37（1904）年辰年の、京都の旅館の引札曆です。龍がデザインされたインパクトの強い一枚で、縦が約50cmあります。赤が旧曆、黒が新曆です。コレクションには、同じ印刷発行人（大阪の野村富三郎）、同じ図柄で商店の名前だけが違うものもあり、印刷所が共通デザインを作り広告主を入れ替えて作製していたと思われる。



明治三十八巳年略曆 <請求記号 VF6-F9-48>

福島県の醸造会社の引札曆です。日露戦争真っ最中に印刷されました。相撲に見立てており、力士姿の日本がロシアを倒しています。西洋の人物には、小さく「佛」「英」などと国名が書かれ、行司はアメリカです。

公文書

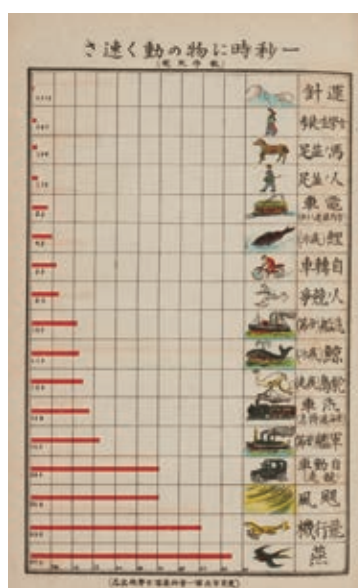
明治8（1875）年10月に、当時の郵便（郵便事業を統括する郵便寮の長）で「郵便制度の父」とも呼ばれる前島密の名前で、大久保一翁東京府知事に対して出された文書です。時計と秤を郵便局に渡すというもので、当時郵便寮が属していた内務省の野紙に書かれています。郵便制度は当初から速さを重視していたため、西洋時計が必需品であり、明治6（1873）年から各地の郵便局に交付が開始されました。また時計が珍しかったため、明治7（1874）年6月25日に通達された用法書には、「長針短針共二十二ノ文字ノ上ニ重ヲ十二時ト心得」といった使い方が書かれています。

内務省時計・掛秤送達書 明治8年10月24日 <請求記号 VF6-S-162>



「時」展覧会は、大正9（1920）年に東京教育博物館（国立科学博物館の前身）で開催された「時」をテーマにした展覧会です。中心となった生活改善同盟会は、生活の洋式化や合理化を推進するため、同年に文部省の外郭団体として作られ、出版物の発行や展覧会の開催等の活動を行いました。規約では、生活改善のために実行する項目の最初に「時間ヲ正確ニ守ルコト」が掲げられていました。「時」展覧会には、各種の時計の展示や研究発表等、数十団体が出展し、43日間で22万人が訪れ、会期中に6月10日が「時の記念日」に定められました。今年が「時の記念日」100周年にあたり、この記事も、時の記念日100周年に合わせて企画しました。

「時」展覧会



誌上時展覧会 南光社 1920<請求記号 VF6-177>

評判のよかった「時」展覧会を記録する目的で、また展覧会に行けない地方の人の要望もあり、展示を記録した冊子が作られました。暦の歴史や標準時の説明から、偉人の没年、大阪府立岸和田中学校出品「食物の胃中に滞在する時間図」（生卵は1時間半、半熟卵は3時間、ピフテキは4時間）、東京府立第一高等女学校出品「婦人一生の結髪時間」（4431時間42分半）、生活改善同盟会出品「内外芝居見物の比較」（日本の芝居は長すぎるとの主張）といったことで、バラエティーに富んだ本となっています。



「時」童謡唱歌集 女学生画報社 1920<請求記号 VF6-P-81>

大盛況だった「時」展覧会は、清水谷高等女学校の同窓会である清友会主催の「時」博覧会として、大阪に巡回しました。この際、時に関する童謡の歌詞が募集され、1,100通以上の応募がありました。一等は「お日さん、お日さん、いま何時。影が一尺、いま一時。一時になったら何が鳴る。町の工場の汽笛（ふえ）が鳴る。」。入選作には音楽教育者の永井幸次の曲が付されました。佳作となった田淵巖の「金より尊い」は、「尊い宝」として全国で歌われ、平成28（2016）年には『幻の「時の記念日の歌』』として「尊い宝」を再現するイベントも行われました²。

キンダーブック

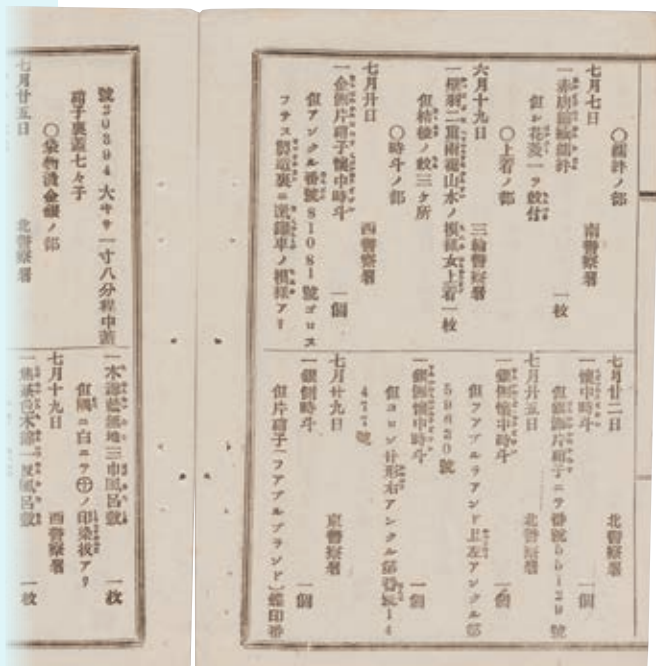
キンダーブックは、昭和2（1927）年11月にフレールベル館より創刊された保育雑誌です。大正15（1926）年の幼稚園令で加えられた保育項目「観察」に沿って「観察絵本」として作られ、幼稚園への直接販売方式をとりました。「トケイ」の号では、時計の種類、時間と生活、日本とイギリスの時差といった内容が描かれています。表紙は清水良雄画。市川越夫画による「セカイイチノオホドケイ」は、昭和6（1931）年に営業を開始した上野の駅ビル「地下鉄ストア」を描いたもので、この時計は直径が20メートルありました。



キンダーブック 第5輯第2編「トケイ」 日本玩具研究会 編 フレーベル館 1932<請求記号 VF6-P-387>

品触れ

品触れは、警察が紛失品や盗難品を探すために古物商に出す通知のことです。現在も古物営業法に定められており、通知に書かれた品物を発見した場合は警察に届け出ることになっています。この品触れは明治17（1884）年に大阪府警から出されたもので、「羽織の部」「帷子の部」等につき「時斗の部」があり、「銀側時斗但片硝子（フアブルブランド）蝶印番号20394 大キサ一寸八分程中蓋硝子裏蓋七々子」といった詳細が載っています。なお、明治時代には、「とけい」の漢字表記は、「時斗」のほかにも、「土計」「斗鶏」「自鳴鐘」等多数ありました。

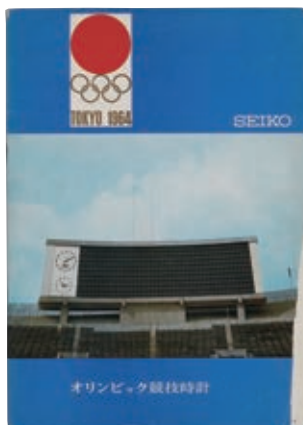


品触 質商の部 第四号 1884<請求記号 VF6-F27>

オリンピックの競技時計



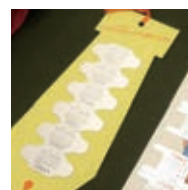
オリンピック競技時計 Tokyo1964 [服部時計店] <請求記号 VF6-P-383>



オリンピックでは、一つの時計メーカーが「オフィシャルタイムキーパー」として、競技の計測などを行います。昭和39（1964）年の東京オリンピックでは、セイコー社が担当し、ストップウォッチだけで1,000個以上、そのほかにも種目別の計測装置や観客用大時計等、多数の時計が使われました。また、東京大

会以前は手動計時でしたが、この大会で初めて一部の競技で電子計時が公式計時として採用されました。そのため、着順・競技時間に関してのクレームが発生しなかった初めてのオリンピックとされています。このパンフレットは、事前に開催された展示会のものと思われます。

ウォッチバンドカレンダー



懐かしく思う方も多いのではないのでしょうか。一つずつ切り離して時計のバンドに巻いて使う、アルミ製のカレンダーです。ウォッチバンドカレンダーと呼ばれ、企業の販売促進アイテムとして流行しました。現在はほとんど見なくなりましたが、逆に昭和レトロの雰囲気や珍しさから根強い人気があり、「令和元年」のものは完売したそうです。

■堀田両平コレクションの利用について

大半の資料は、国立国会図書館東京本館の図書別室で利用できます。和図書や書類は国立国会図書館オンラインでは検索できないため、図書別室に備え付けのカード目録及び「時計の文献目録」「とけいとこよみの錦絵目録」のファイルをご確認ください。洋図書は、国立国会図書館オンラインで分類に「VF6」と入力すると検索できます。

浮世絵を中心とする江戸期以前の資料は、古典籍資料室で所蔵しています。国立国会図書館オンラインでキーワードに「堀田両平氏寄贈」と入力すると検索できます。一部はデジタル化されてインターネットで閲覧できます。

■参考文献

『ホッタ小史 堀田時計店からホッタへ 堀田良平の半生記』ホッタ 1990.11 <請求記号 DH465-L6>

『おかげさまで創業100年堀田時計店 1879・Hotta・1979』[堀田時計店] [1979] <請求記号 Y93-J1844>

岡田芳朗 編者代表『暦の大事典 ENCYCLOPEDIA OF CALENDAR』朝倉書店 2014.7 <請求記号 MB95-L4>

郵政省 編『郵政百年史資料 第26巻』吉川弘文館 1971 <請求記号 693.21-Y995y3>

井上毅 「時の記念日」と大正時代の「時」展覧会『博物館研究』Vol.50 No.5 (No.563) 2015.5 <請求記号 Z21-206>

織田一朗 著『「世界最速の男」をとらえろ！ 進化する「スポーツ計時」の驚くべき世界』草思社 2013.7 <請求記号 FS21-L2>

■ p.12 の肖像の出典 『ホッタ小史 堀田時計店からホッタへ』

1 https://mineaki.typepad.jp/_/2012/03/%E4%BB%8A%E6%97%A5%E3%81%AF%E5%85%88%E3%80%85%E4%BB%A3%E3%81%AE%E5%91%BD%E6%97%A5%E3%81%A7%E3%81%99.html

2 http://www.am12.jp/event/other/other_h28/uta_tokinokinnbi_1920.html

私は国際子ども図書館の施設管理をしています。国際子ども図書館のレンガ棟はルネサンス様式の荘厳な建物で、東京都の歴史的建造物に選定されています。担当していて、困ったなあと思うことがあったので2つご紹介したいと思います。

1. 軒先にスズメバチが巣を作ってしまった！

上野公園のそばで緑が多く、スズメバチが生息する環境が整っていたようで、軒先に巣ができてしまいました。利用者の方を襲撃したら一大事、急いで駆除しなければなりません。しかし、6階建て相当の高所のため、駆除業者が近づくことができませんでした。そこで、当初は足場を組んでの駆除を計画しましたが、足場業者が見つかりません。とても困ってしまいました。しかし、高所作業車なら手配ができるということが判明。離れた車路に高所作業車を配置し、20m位アームを伸ばしてなんとか巣に近づき駆除することができました。

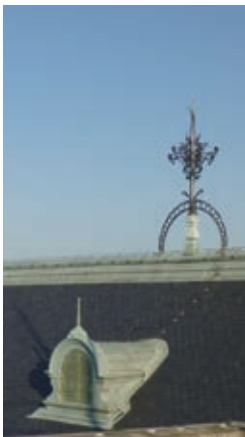
大きな高所作業車のアーム先端のかごに、防護服を着た駆除業者が乗って作業している様子を、ずっと地上から見ているのですが、「スズメバチの巣を駆除するだけなのに大がかりな作業となってしまうなあ」と複雑な気持ちになりつつ、駆除できて心底ほっとしました。

2. 避雷針の配線が外れてしまった！

屋根のてっぺんに装飾を施した避雷針が数か所設置しており、落雷した電気を地面に流す配線が接続されています。一昨年の台風の際に、配線を支えている金具が外れてしまい、屋根の上でブラブラしている状態になっていました。このままでは次の台風で配線はもとより、配線につながっている避雷針まで一緒に吹き飛ばされてしまう可能性があります。

屋根に上って外れた金具を直接確認し、外れないように対策をしたいところだったので、屋根は高所で急こう配、しかも壊れやすい材質で、踏むと割れてしまう可能性があったため、外れた金具を直接確認することはできず、とても困ってしまいました。そこで、以前屋根を施工した工事業者と何度も打ち合わせをして、頑丈でありつつも屋根をなるべく傷めない取り付け金具の改善案を提案してもらい、どうにか修理工事を発注することができました。工事を発注するまでの準備と調整に半年以上かかり、工事終了まで1年近くかかりました。(おかげで去年の台風19号ではびくともしませんでした。)いかがでしたでしょうか。他にも困ったことは多々あるのですが、また機会がありましたらご紹介したいと思います。管理課は、みなさまの見えないところから国際子ども図書館を支えています。

(管理課 GJT3K)



「とても困った！」

国立国会図書館で働いています

利用と保存の両立のためには、デジタル画像と一緒に得られる情報をもっと増えるといいと思うんです



レファレンス係でどんなお仕事をされているか教えてください。

レファレンスサービス全般の企画調

整というか、会議の運営や方針の検討、マニュアルの

改訂、あと、リサーチ・ナビ^①にある「調

べ方案内」の各課

が作ったコンテンツの確認、利用者

サービスの部門の研修の運営もやって

います。レファレンスそのものにつ

いては、全国の図書館からの依頼の

振り分けは関西館

文献提供課で、専門的なものは各専

門室で行っています

ですが、レファレンス係ではそれ以外

の図書や雑誌など、

また、「記事掲載箇

所調査」といって、個人向けの複写

のために、論文のタイトルはわかる

けど掲載されているのがどの号かわ

からない、といった場合の調査など

も行っていきます。

レファレンスについての頭脳の部分

ということなんです。古典籍係か

ら異動してびっくりしましたか？

そうですね。古典籍係には11年もち

たので、戸惑うことがありました。取

りまとめをするので、専門室ごと

に意見が違った時の進め方はちょっと

と難しいなど。それぞれ扱う分野も

違うので、どんどんリサーチ・ナビに載せていけるような分野もあれば、『参考書誌研究^②』でじっくり発表した方がいいような成果もあって、本当にいろいろだなと。

そもそも古典籍係には希望して異動したのでしょか。

行きたいとは思っていたのですが、まさか行けると思っていなくて。中国史をやっていたと言っても、そん

なに知識もなかったし、大学時代は漢籍といつても、おもに二次資料を見ていたので、最初

は本当に身の縮む思いでした。会議で言っている単語がわからない(苦笑)。

例えば？

「刊記^③」とか「版心^④」とか、全然漢字に変換できなかったです。くずし

字も全然知らなかったため、係の勉強会に参加して。でも、古典籍係では他で経験できないこと、たとえば

貴重書を見たり、貴重書の書庫に入るなど、それこそ貴重な経験ができました。貴重書指定の仕事では、

じっくり一つの資料を調べて、出張に行って他機関の資料を調べたりして、楽しかったです。

no.6

豊田 さおり 利用者サービス部 サービス企画課 レファレンス係長

平成 15 (2003) 年 4 月 入館 書誌部 国内図書課 目録第二係

平成 16 (2004) 年 4 月 同課 一括整理係

平成 18 (2006) 年 4 月 関西館 資料部 収集整理課 整理係

平成 20 (2008) 年 10 月 主題情報部 古典籍課 整理閲覧係

平成 23 (2011) 年 4 月 同課 整理閲覧係長

平成 24 (2012) 年 4 月 利用者サービス部 人文課 古典籍係長*

平成 31 (2019) 年 4 月 同部 サービス企画課 レファレンス係長

*組織改編により名称変更

聞き手：総務課編集係
令和 2 (2020) 年 3 月 2 日インタビュー

4月号に執筆していただいた『孔子聖蹟之図』の書誌的調査」ですね。閲覧以外に、そういった調査や、書誌作成や修正もするんですね。

地道な仕事が多かったです。特に、私が異動したときは、冊子体の目録には載ってるんだけど、NDL・OPAC（現在の国立国会図書館オンライン）に入力されていない資料というのがけっこうありました。

NDL・OPACは2002年にかけていますから、入力にかなり時間がかかっていたんですね。

2010年頃の大規模デジタル化のときに重点的に未入力資料の入力が進みました。

ほかに、展示の仕事も楽しかったです。「統・あの人の直筆」展とか。資料のある視点から選んで、課題を書くのはすごく面白かったです。

あと「選書」といって、購入する資料を選定する仕事もあります。古書店の目録を見て直接本屋とやり取りします。「入札会」というものもあります。目録が回ってきて、担当の部分を見て選ぶんです。

けっこう高いですよ。何十万とか。「これ安いな」と思ったらゼロが一桁違っていたりすることが（笑）。個人だったら買えないようなレベルの話なので、緊張感があります。

古典籍係といえば、資料をすごく大切に扱っていますね。ゆつくりゆつくりめくって。巻物を巻くのがすごく難しくそうです。よくずれないかと。あれは配属されたら習うんですか？

資料の扱いは配属後最初の研修で習うんですけど、その後はOJTです。巻物は下手だとタケノコみたいになっちゃうんですね。書誌を入力するときにも、何十軸もある巻物で、奥書が最後にあつたりするので、最後まで見ないとわからないので、たすらくるくるします。

ということは、もう一回見ようと思つたら、もう一回くるくるしなければならぬ。

そうそう。苦勞してやったのに何も書いてないと泣きそう（笑）。でも急ぐと手が荒くなってしまうので。

「手が荒くなる」！

乱暴に扱ってしまうことになるので。傷んでいる資料も多いので、めくる時も何かあつたらびりっというてしまうのですごく気を遣いますね。あとハンドクリームとか塗ってからだに資料に触れないので、けっこう冬場は手が荒れますね。

最初に書誌部にいらしたのは古典籍の書誌作成に役立ちましたか。

本屋さんに並ぶような一般の本の書誌をとっていました。本にある情報を正確にデータにとるといふ基本を教わりました。関西館の収集整理課でも引き続き書誌の仕事をしたんですけど、資料がわりと特殊で、レポート類とか洋雑誌とか、ちょっと応用編という感じでした。

そのあとに古典籍係に異動して、基本、データのとり方は役に立ちました。ただ、今の本とは違う事情があります。本に書いてあつたとしても、それをそのまま記録してはいけません。写本だと「何年に書き写した」という記述があつたりするんですけど、それは過去の書入れをその

まま書いただけという可能性もあるので。

本当に書き写したのがいつかは、書いていないんですか？

そういうこともあります。書いてないとき、推定ができる場合もあるんですけど、できない場合は書写年代不明として記録します。誤った情報になるようなものは入力しない、という考え方です。こういう書入れがありますという事実だけを注記に入力するとか。

今の本だったら、奥付を見ればいいんですけど、当時はそういうルールがないわけですね。

まだ、江戸時代の刊本とかだったらポイントが掴めればすぐにできるんですけど、写本とか江戸より古い時代のものだったりするとちょっと難



習字練習用の無地の巻物で実演してもらいました。

- (1) 調べ物の窓口となるサイト。https://mavi.ndl.go.jp/mavi/
- (2) 図書館員のレファレンス業務や研究者の調査研究に役立つ専門書誌、資料研究を掲載する刊行物。不定期刊。https://mavi.ndl.go.jp/bibliography/
- (3) 出版年月、出版地、出版者名などを示した表記。
- (4) 紙を二つ折りしてとじたとき小口にくる部分。
- (5) 平成28(2016)年に東京本館と関西館で開催した企画展示。平成26年(2014)年の「あの人の直筆」は電子展示会も。https://www.ndl.go.jp/jikihitsu/
- (6) 巻末にある著者名や書写年月日、来歴などの書き入れ。

本屋に

ない

本



理科室からふるさとの自然を見つめて
知れば知るほど面白い標本の世界
平成30年度岐阜県博物館特別展図録
岐阜県博物館 2018.7 60p 30cm
<請求記号 RA66-M1>

まず初めに断っておきたいことがある。私は、生き物の生々しい姿を見るのがあまり好きではない。昆虫に触ることなんてとてもできない。そんな私がこの本に出会ったのは、展示に出展する資料を選定する業務で種々の展覧会図録を探していた時である。ふと目に入った、「理科室からふるさとの自然を見つめて」というタイトル。理科室は好きだった。色々な実験をして楽しかった記憶がよみがえる。「ふるさと」という言葉にも心惹かれた。だがよく見てみると、標本についての本らしい。気になる……けど生き物……と思いつつも、ポップな表紙にも助けられ、これは仕事だと割り切って読んでみることにした。

本書は、岐阜県博物館で平成30(2018)年に行われた特別展の図録である。まず第1章では、標本についての基本的な説明とともに様々な標本の写真が掲載されている。思わずぎよつとする写真もあったが、不思議と読み進めていくことができた。というのも、どんな標本であれ、生物学等の研究に役立つているのはもちろんのこと、私たちの生活にも密接に関わっているということが本書で述べられているので、必要以上に怖がることもないのだなと思えてきたのである。標本には、いつ、どこで採集されたものなのかの情報が不可欠で、それにより特定の時期、特定の場所の自然の様子をうかがい知ることが出来る。つまり、

「ふるさとの自然」を見つめることができるのだ。身の回りにはいろいろな生き物たちが、私たちと同じ「ふるさと」を共有しながら暮らしているということに気づかせてくれた。第2章では、標本の作り方が説明されている。生きた動物を保存するために必要な細かい作業の連続は、自分には到底できないな、と素直に学芸員の方を尊敬する。印象に残ったのが、上手く作ることができなかった場合でも、採集に関わる情報の記録があれば、標本の価値は変わらないということ。いつ、どこでという情報が大事なものは、標本も図書館の本も同じようだ。第3章では、主に戦前の理科室に置かれていた標本について説明されてい

る。戦前は、実物を使った教育が奨励されていたため、多くの標本が教材として使われた。現代では理科室からふるさとの自然を見つめる機会は減ってしまったが、続く第4章では、博物館で所蔵している標本を活用する様々な方法が紹介されている。理科室の楽しい思い出を再び経験しに行くという気持ちで、地元の博物館に行ってみるのもいいかもしれない。私のふるさとは、いったいどんな生き物たちが暮らしているのだろうか……。世界を見る目が、少しだけ変わったような気がした。

(整元 康太)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

新刊案内 レファレンス 831号

フランスにおける高等教育進学制度の課題と改革
高規格堤防整備の現状と課題
AI等の技術の雇用への影響をめぐる議論
日本の諸外国に対する海上法執行能力構築支援―巡視船艇
及び自衛隊の装備品等の供与を中心に―



A4 83頁 月刊 1,000円 (税別)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ
日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03(3523)0812

参考書誌研究 第80号

特集：「大沼枕山・鶴林関係資料」
「大沼枕山・鶴林関係資料」解説
準貴重書「大沼枕山・鶴林関係資料」の保存修復処置につ
いての形態の変更を中心に
「大沼枕山・鶴林関係資料」目録



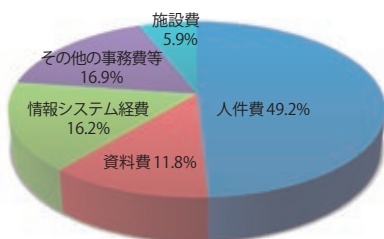
当館ホームページからご覧ください。
<https://mavi.ndl.go.jp/bibliography/>

国立国会図書館の令和2年度予算

国の令和2年度予算が令和2年3月27日に成立しました。国立国会図書館の令和2年度歳出予算額は、202億1634万5000円です。その概要は、表のとおりです。

令和2年度歳出予算額 (単位：千円)	
(項) 国立国会図書館	19,014,252
人件費	9,947,341
国立国会図書館共通経費	179,209
国会サービス経費	253,724
資料費	2,382,485
うち納入出版物代償金	397,476
情報システム経費	3,268,384
東京本館業務経費	1,761,386
国際子ども図書館業務経費	263,943
関西館業務経費	957,780
(項) 国立国会図書館施設費	1,202,093
東京本館庁舎整備費	1,079,436
関西館庁舎整備費	99,363
国際子ども図書館庁舎整備費	23,294
計	20,216,345

予算の費目別構成比(令和2年度)



18
国際子ども図書館夜のレンガ棟
photo by Kenzi

6

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2020.6

NO.710

JUNE
2020

CONTENTS

- Greetings from new NDL Director General YOSHINAGA Motonobu
- 03 <Book of the month - from NDL collections>
Vaiorin dokushu jizai: Sokusei kan'i
—If only I could play the violin, that fascinating Western instrument
- 07 A library in Ueno—Referring to *Yumemiru teikoku toshokan*
- 08 The genealogy of the library in Ueno
- 09 The Imperial Library in photographs
- 14 Great writers at the Imperial Library and the books they read
- 19 Looking at the library in Ueno
—Documents of the Imperial Library from the NDL Digital Collections
- 24 The Personal Libraries of Well-Known People (3)
HOTTA Ryohei Collection
- 30 Working at the NDL, Episode 6
- 29 <Tidbits of information on NDL>
Problems with the facilities at the International Library of Children's Literature
- 33 <Books not commercially available>
Rikashitsu kara furusato no shizen o mitsumete
- 34 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和2年6月号 (No.710)

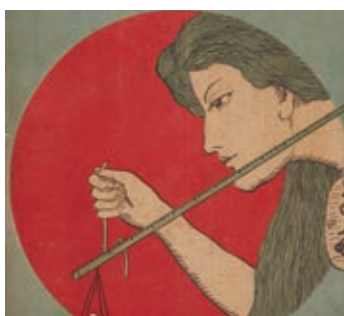
令和2年6月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 三浦良文
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 0 . 6

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

六